

北九州市小学生バスケットボール連盟

送別交歓大会 3×3 ルール

- 1ゲーム・5分。合図で一斉スタート。原則として時間は止めないが、審判が必要と判断した場合には、ゲームクロックを止めることができる。
「必要な場合」とは、ボールが遠くまで出たとき・けがなどのトラブルが発生した場合など。
- 最初のオフェンスは、ジャンケンで勝った方から行う。
- オフェンスは、すべて、3ポイントエリア（3ポイントラインは含まない）から始まる。
 - ① ゲームの開始のとき。（3ポイントエリアのどこから始めてもよい）
 - ② ショットが成功したあと。
 - ③ ファウル及びヴァイオレイションがあったあと。（スローインやフリースローは行わない）
 - ④ ヘルドボールのとき。（すべてディフェンス側のボール）
 - ⑤ リバウンドボールをディフェンス側が保持したとき。
 - ⑥ ディフェンスがカット・スティールをしたとき。
- ※ 審判は合図をし、3ポイントエリアを指して選手に指示をすること。
- ※ オフェンスとなるチームが、3ポイントラインの外にいる選手にボールを出す前に又は選手がボールを持って（ドリブルして）3ポイントラインの外に出る前にオフェンスを開始した場合は、審判が速やかにオフェンスのやり直しをさせる。
- ※ 3ポイントエリアへ運んでいるボールを、相手はカットしてはならない。
- ファウルのあとは、ファウルをされたチームのボールでスタートする。
- ファウルは、常に1点が与えられる。ショット時のファウルは、ショットが成功すればカウント+1点となる。（3ポイントが成功すれば4点）
- ※ ファウルをされた場合でも、ショットが成功した場合は、攻撃権は相手に移る。
- ファウルによる退場はない。
- 3ポイント制を採用する。
 - ※ ショット前…ラインを踏んではならない。ショット後…ラインを踏んでも、越えてもよい。
 - ※ シューターが3ポイントラインの外側からショットをしていれば、ディフェンスがラインの内側からボールに触れていても、ショットが成功すれば3点を与える。
- オフェンスは、攻撃を開始した瞬間（ドリブルやパスによりボールが3ポイントエリアに出た瞬間）から14秒以内にショットをしなければならない。 【14秒ルール】
14秒以内にショットができない場合は、ヴァイオレイションである。
ディフェンスがカットしてアウトオブバウンズになり、オフェンス側（カットされた側）のボールで再開する場合、14秒は継続とする。
- 次の場合、オフェンスの権利を得たチームは、5秒以内にボールを3ポイントエリアに戻し、攻撃を再開しなければならない。（ドリブルやパスによりボールを3ポイントエリアに出さなければならない。） 【5秒ルール】

- ① ショットが成功したあと。
 - ② ファウル及びヴァイオレイションがあったあと。
 - ③ ヘルドボールのとき。
 - ④ リバウンドボールをディフェンス側が保持したとき。
 - ⑤ ディフェンスがカット・スティールをしたとき。(ディフェンスがカットしてアウトオブバウンズになった場合は、オフェンス側(カットされた側)のボールで再開する。)
- ※ 5秒以内に攻撃を再開できない場合は、ヴァイオレイションである。
- ※ 審判は、選手やT・Oに必要な指示をしたあと、5秒を計測すること。
- オフェンス開始後(オフェンスとなるチームが3ポイントエリアにボールを出した瞬間から)は、オフェンス・ディフェンスともコート内のどの場所でもプレイできる。
- その他
- 14秒ルールの計時等デジタイマーの操作は、各コートのT・Oが行う。
 - T・O及び得点板は、次のゲームの選手が行う。(最終ゲームについては、前のゲームの選手が行う。)
 - 審判団は、ゲームがスムーズに進行するように配慮する。特にゲームとゲームの間が短くなるように、次のゲームのチームを事前に確認し、速やかに交替をさせるようにする。
 - ゲームをしていないチームの選手は、公園側のコート(ハーフ)でマスクを着用し、適切な間隔をとって待機する。
 - 服装は通常のユニホーム、またはTシャツ程度のものとし、フードや金具などのついたものや、派手なものなどは禁止する。ユニホーム以外のTシャツなどを着用する場合は、チームで同一のものにそろえること。
頭髪の染色や顔のペインティング等は、大会に支障をきたすことがあったため、禁止します。指導者が徹底して下さい。
 - 順位決定は、①勝率⇒②ゴールアベレージで決める。それでも決まらない場合は、代表1名によるジャンケンを行う。(予選・決勝とも延長はない⇒同点の場合は代表1名のジャンケンを行う。)